

文化財パネル展 ののいち歴史探訪

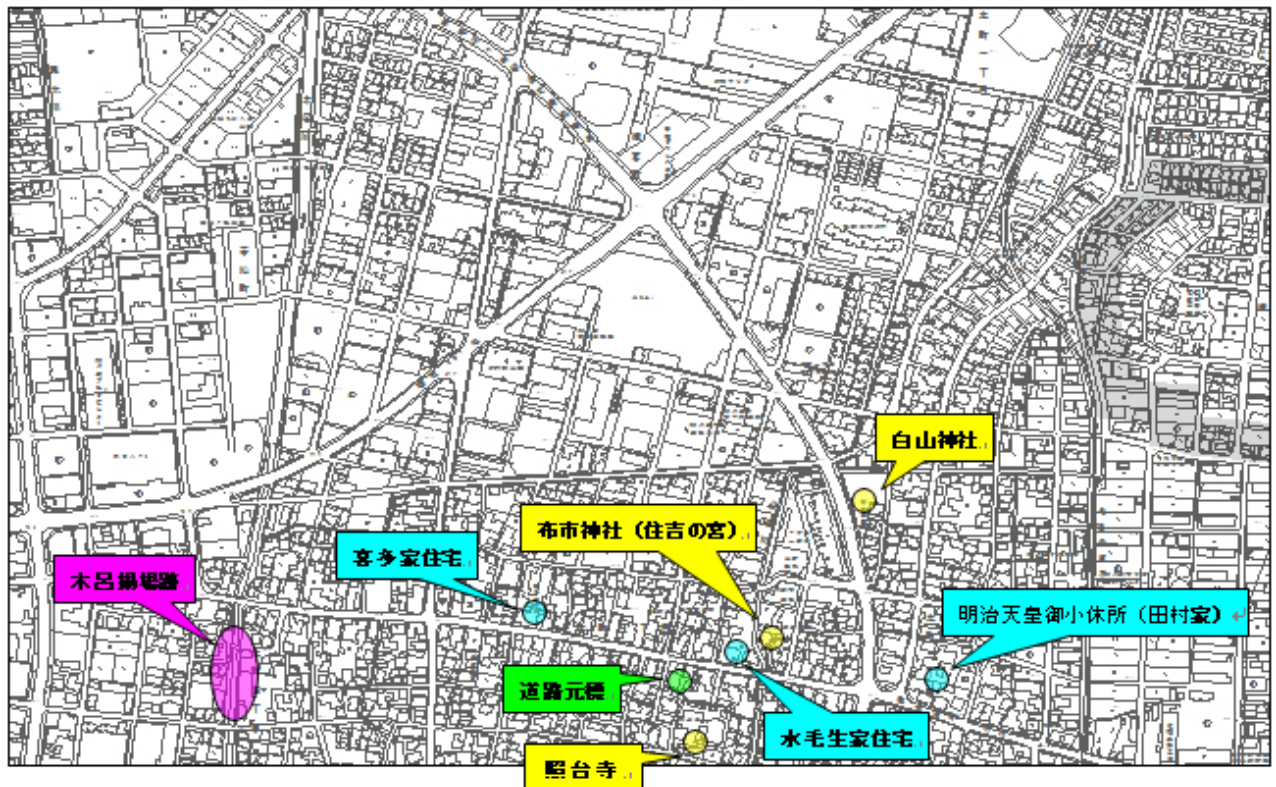
「北國街道をめぐる」

ここ野々市町郷土資料館の前の道、通称「本町通り」は、江戸時代には城下町金沢と京都を結ぶ北国街道でした。

本町地区は野々市村と呼び、金沢から西方へ向かう1つ目の宿^{しゆくえき}で、当時は多くの人々が行き交^かうにぎやかな場所でありました。現在も通り沿いには江戸時代から昭和初期までの面影^{おもかげ}や名残^{なごり}を見ることができます。

このパネル展では本町通り沿いに残る江戸時代以降の文化遺産を紹介していきます。この展示を見終えた後、そのまま現地を訪^{たず}ねてみてはいかがでしょうか。

北 国 街 道 沿 い の 文 化 財



- 寺院・神社
- 建造物
- 史跡
- その他

はくさんじんじゃ
白山神社

白山神社は新町（現 本町 2 丁目）の鎮守で、永仁年間（987～988）の創立と伝えられています。現在、横宮町の大和ハウジング隣にある北横宮は旧社地にあたり、本殿が置かれていました。本殿は、江戸時代後半に白山神社内に移され、建替えを繰り返しながら現在の建物様式となりました。境内には、江戸時代終わり頃の石造物をみることができます。



めいじてんのうごしょうきゅうじょ たむらけ
明治天皇御小休所（田村家）

明治 5 年から同 18 年まで明治天皇は全国を巡幸^{じゅんこう}しています。明治 11 年（1878）、北陸・東海を巡幸され、10 月 5 日の朝には野々市の藤村家^{ふじむらけ}（現田村家）で小休止されました。その建物は非公開ですが、本町通りに面した門と土塀は当時のまま残っています。



ぬのいちじんじや すみよし みや
布市神社（住吉の宮）

この神社は^{とがしごうすみよしじんじや}富樫郷住吉神社と呼ばれ、^{ひといちまち}一日市町、^{なかまち}中町、^{むいかまち}六日町（現 本町 2・3 丁目）の鎮守でした。大正 3 年（1914）^{にしまち}西町（現 本町 4 丁目）の鎮守であった^{てる ひ はちまんじんじや}照目八幡神社と^{あらまち}荒町（現 本町 1 丁目）の鎮守であった^{そでもりはちまんじんじや}外守八幡神社を合祀して布市神社と改名しました。

境内には、樹齢推定 500 年といわれている^{イチョウ}銀杏の木（^{たいこうそんじゅ}大公孫樹）や、室町時代に京都^{しょうごいん}聖護院の僧である^{どうこう}道興が野々市を訪ねた時に歌った和歌の歌碑、伝説として鎌倉時代に^{べんけい}弁慶が富樫氏の館を訪ねた時に投げたといわれている石（通称 ^{ちからいし}力石）、江戸時代に大坂より運ばれてきた^{いしどうろう}石灯籠などがあります。



み も う け じゅうたく

水毛生家住宅（町指定有形文化財）

水毛生家は、間取りは町家ですが、表構えは^{きりつまつまい}切妻妻入り型の農家風建築物で、北加賀地方の町家では極めて貴重な住宅です。

表構えとミセノマは江戸時代末期の構造で、後方にある主屋は明治時代に^{たてか}建替られており、茶室「^{かせきてい}可夕亭」をはじめとする^{すきやづく}数奇屋造りとなっています。さらに東に突き出たところには大正時代の茶室があり、その奥に広がる庭園と^{たたず}の佇まいは旧家らしい^{じゅうこう おもむき}重厚な趣を感じさせることができます。

（個人住宅のため、通常の一般公開はしていません。）



しょうだいじ
照台寺

嘉禄元年（1225）、念和ねんわという僧が天台宗てんだいしゅうの寺院として創立し、元弘元年（1331）本願寺ほんがんじの周覚しゅうかくが真宗に改宗したといわれています。

山号は光聖山といい、加賀における本願寺一派による代表的な寺院のひとつです。

また境内には、明治時代に野々市に電化普及を努め、県会議員・村長れきにんを歴任した藤村理平ふじむらりへいの墓があります。なお、藤村理平の功績を称えた石碑が白山町の「六郎口公園」に立っています。



どうろげんびょう
道路元標

明治6年（1873）、各府県所在地の街道要所に^{きてん}起点元標を置くこととなり、その起点を基準に各町村の距離が測定されました。本町児童館前にある道路元標は旧野々市村のもので、大正9年（1920）当時の役場があったこの地に立てられたものです。なお、石川県の測点起点は金沢市^{はしげちやう}橋場町交差点付近です。



喜多家住宅（国指定有形文化財）

喜多家は、もとは福井藩の武士でしたが、貞享^{じょうきやう}3年（1686）に野々市に移ってきました。野々市では代々油屋を営み、幕末^{ばくまつ}には酒造りをはじめました。

明治24年（1891）、野々市の大火で一部を残して建物は焼失してしまい、現在の主屋は金沢市材木町^{さいもくちやう}の醤油屋^{しょうゆや}の建物を買い取り移築したものです。主屋は江戸時代のもので、石川県に残る町屋建築の中では最も古く大変貴重なものです。

休館日 無休

入館時間 午前9時～午後5時

入館料 大人400円 小人300円



こ ろ あげ ばあ と
木呂揚場跡

江戸時代、加賀藩は松の木の伐採^{ばっさい}を禁止したため、都市部のマキを補うために白山麓^{はくさんろく}からケヤキを切って燃料としました。木呂揚場はその名のとおりに、木呂川を流してきた木材を引き上げて集積した場所です。5,000 坪の広大な敷地でしたが、明治 22 年（1889）に廃止されました。

